

・活断層で発生する地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成18年(2006年)1月1日)

	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
<b>湖北山地 北西部</b>		
100年	ほぼ0%	ほぼ0%~0.001%
<b>生駒</b>		
50年	ほぼ0%~0.2%	ほぼ0%~0.3%
<b>伊勢湾 主部 南部</b>		
100年	ほぼ0%~0.008%	ほぼ0%~0.009%

表記の修正

屏風山・恵那山及び嶺投山 恵那山-嶺投山北	誤(有効数字の丸め方の不統一)	正
50年	0.001%~3%	ほぼ0%~3%

活断層評価備考

ここに掲載しているものは、再計算の結果、発生確率値の表記に変更もしくは修正のあったもの。

・海溝型地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成18年(2006年)1月1日)

<b>相模トラフ</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
大正型関東地震		
平均発生間隔	200-400年	
ばらつき	0.17-0.24	
経過率	0.20-0.40	0.21-0.41
10年	ほぼ0%~0.05%	ほぼ0%~0.06%
20年	ほぼ0%~0.3%	ほぼ0%~0.3%
30年	ほぼ0%~0.9%	ほぼ0%~1%
40年	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~2%
50年	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~5%
元禄型関東地震		
平均発生間隔	2300年	
ばらつき	0.17-0.24	
経過率		0.13
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

<b>南海トラフ</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
南海地震		
平均発生間隔	次の地震90.1年(平均:114.0年)	
ばらつき	0.20-0.24	
経過率		0.64
10年	10%程度	10%程度
20年	30%程度	30%程度
30年	50%程度	50%程度
40年	70%程度	70%程度
50年	80%程度	80%~90%
東南海地震		
平均発生間隔	次の地震86.4年(平均111.6年)	
ばらつき	0.18-0.24	
経過率		0.70
10年	10%~20%	10%~20%
20年	40%程度	40%程度
30年	60%程度	60%程度
40年	70%~80%	80%程度
50年	90%程度	90%程度

<b>三陸沖から房総沖</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
三陸沖北部		
平均発生間隔	97.0年	
ばらつき	0.11-0.24	
経過率		0.38
10年	ほぼ0%~0.1%	ほぼ0%~0.2%
20年	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~2%
30年	0.04%~7%	0.06%~8%
40年	2%~20%	2%~20%
50年	20%~40%	20%~40%
三陸沖南部海溝寄り		
平均発生間隔	104.5年(105年程度)	
ばらつき	0.19-0.24	
経過率		1.03
10年	30%~40%	30%~40%
20年	60%~70%	60%~70%
30年	70%~80%	80%~90%
40年	90%程度	90%程度
50年	90%程度以上	90%程度以上

<b>千島海溝(1/2)</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
十勝沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき	0.24-0.32	
経過率		0.02
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%~0.004%	ほぼ0%~0.007%
30年	0.02%~0.5%	0.04%~0.7%
40年	1%~5%	2%~6%
50年	9%~20%	10%~20%
根室沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき	0.24-0.32	
経過率		0.44
10年	1%~5%	2%~6%
20年	10%~20%	10%~20%
30年	30%~40%	30%~40%
40年	50%程度	60%程度
50年	70%程度	70%~80%

<b>宮城県沖</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
平均発生間隔	37.1	
ばらつき		0.177
経過率		0.72
10年		50%程度
20年		90%程度
30年		99%
40年		
50年		

<b>日本海東部</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
北海道北西沖		
平均発生間隔	3900年	
ばらつき	0.17-0.24	
経過率		2100年(0.54)は概数なので更新せず
10年	0.002%~0.04%	0.002%~0.04%
20年	0.004%~0.07%	0.004%~0.07%
30年	0.006%~0.1%	0.006%~0.1%
40年	0.008%~0.2%	0.008%~0.2%
50年	0.01%~0.2%	0.01%~0.2%
北海道西方沖		
平均発生間隔	1400-3900年	
ばらつき	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.05	0.02-0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

<b>北海道南西沖</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
平均発生間隔	500-1400年	
ばらつき	0.17-0.24	
経過率	0.008-0.02	0.009-0.02
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

<b>青森県西方沖</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
平均発生間隔	500-1400年	
ばらつき	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.04	0.02-0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

<b>山形県沖</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
平均発生間隔	1000年以上	
ばらつき	0.17-0.24	
経過率	0.17以下	0.17以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

<b>新潟県北部沖</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
平均発生間隔	1000年以上	
ばらつき	0.17-0.24	
経過率	0.04以下	0.04以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

<b>千島海溝(2/2)</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
色丹島沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき	0.24-0.32	
経過率		0.49
10年	3%~8%	4%~9%
20年	20%程度	20%~30%
30年	40%程度	40%程度
40年	60%程度	60%程度
50年	80%程度	80%程度
択捉島沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき	0.24-0.32	
経過率		0.57
10年	8%~10%	9%~10%
20年	30%程度	30%程度
30年	50%程度	50%程度
40年	70%程度	70%程度
50年	80%~90%	80%~90%

<b>(参考)想定東海</b>	2005年1月1日時点の評価	2006年1月1日時点の評価
平均発生間隔	118.8年(参考値)	
ばらつき		0.20
経過率		1.26
30年	86%(参考値)	87%(参考値)

海溝型地震備考

ここに掲載しているものは、再計算を行ったもの全て。

黄色で示した箇所が、再計算の結果、表記に変更のあったもの。

宮城県沖は、評価文中で

「これらを踏まえ、地震発生の可能性は、年々高まっており、今後20年程度以内(2020年頃まで)に次の地震が起こる可能性が高いと考えた。」

として、30年以内より長期の発生確率の評価を行っていない。